

病理病態学

必修

開講年次：1年次後期

科目区分：演習

単位：2単位

講義時間：60時間

■**科目のねらい**：病理学の概念、病因論、病変の特徴、健康障害の仕組みについて学び、各器官における疾病を学ぶ上での基礎知識を習得する。また、人体に備わる病態からの回復機構とともに生体防御機構についての概要を理解する。

■**到達目標**：①病気の成り立つメカニズムを理解する。
②主な疾患の症状、診断、治療法の概要を理解する。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎鳥越 俊彦・廣橋 良彦・塚原 智英・金関 貴幸・中津川 宗秀・久保 輝文

■**授業計画・内容**：

- 第1回 病理病態学総論：病理学と病理診断、細胞障害
- 第2回 病理病態学総論：細胞障害と先天異常
- 第3回 病理病態学総論：炎症と免疫
- 第4回 病理病態学総論：感染症と腫瘍
- 第5回 病理病態学各論：循環器系（総論）
- 第6回 病理病態学各論：循環器系（各論）
- 第7回 病理病態学各論：呼吸器系
- 第8回 病理病態学各論：消化器系（胃腸管）
- 第9回 病理病態学各論：消化器系（肝胆膵）
- 第10回 病理病態学各論：泌尿器系
- 第11回 病理病態学各論：造血器系
- 第12回 病理病態学各論：内分泌系
- 第13回 病理病態学各論：運動器系・皮膚
- 第14回 病理病態学各論：神経系
- 第15回 病理病態学各論：感覚器系・全身疾患

■**教科書**：『病理学（新クイックマスター）』／堤 寛 監修（医学芸術社）

■**参考文献**：希望があれば随時紹介します。

■**成績評価基準と方法**：出席率2/3以上が必要条件、成績は定期試験と授業態度にて評価します。

| 評価方法 | 到達目標 | | 評価基準 | 評価割合 (%) |
|------|-------|-------|-------|----------|
| | 到達目標① | 到達目標② | | |
| 定期試験 | ○ | ○ | 60点以上 | 90 |
| 授業態度 | ○ | ○ | 出席率 | 10 |

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：どんなことにも当てはまりますが、最終的には自分で勉強してもらうほかありません。しかし、丸暗記するには膨大すぎる量です。みなさんが教科書をめくり、自分でも勉強できるようになるべく平易な言葉で病理病態のストーリーを説明するよう心がけます。理解できれば、覚えるのはずっと楽です。